

# 小さなアートで笑顔を

爪の手入れを行ったりマニキュアを塗ったりするのは若い女性のおしゃれ、という印象が強いが、高齢者にも楽しんでらおうという動きが広がっている。加齢とともに荒れがちな指先をケアするだけでなく、色鮮やかなネイルアートを施すことで満足感や高揚感など心理的な効果も期待できるといふ。高齢者へのサービスを専門的に行うネイルリストを育成するスクールも誕生している。

(佐々木詩)

## 爪にパンダ

「この間みたいな色、ある?」「爪を短く切り過ぎかしら」。大阪府岸和田市のデイサービス「いずみの森クラブ」。5月中旬、月に1度施設を訪れている一般社団法人「シニアチャレンジッドメンタルビューティー協会」(同市)の理事長、荒木ゆかりさん(53)と同協会認定の福祉ネイリスト、土橋麻子さん(31)が手入れの準備を終えると、デイサービスの女性利用者が次々とやってきた。椅子に座って手を差し出

## 高齢者にも「ネイル」の楽しみ

ネイルリストに爪の手入れをしてもらう高齢者。指先を見て「きれいねえ」 —大阪府岸和田市

すと、荒木さんと土橋さんは、まず古くなったマニキュアを丁寧に落とし、新たにリクエストされた色を塗っていく。あじさいやバラなどの花や、ネコやパンダなどの動物を描くネイルアートを施すことも。

鮮やかなピンク色のマニキュアを選んだ80代の女性は「指が曲がっているのが恥ずかしかったけど、ネイルをしてから気にならなくなりました」、あじさいを描いてもらった70代の女性は「季節感があっていい」と笑顔を見せた。

### 福祉ネイリスト

荒木さんは約3年前、知

人が運営するデイサービス的女性利用者にマニキュアを施し、喜ばれたことをきっかけに、自身が経営するネイルサロンでの仕事の傍ら、個人で高齢者施設を訪問して施術を続けてきた。回を重ねるうち、女性たちの表情が明るくなることに気づいたという。

「爪は唯一、鏡などを使わずに自分で確認することのできる美容なんです」と荒木さん。指先の小さなアートを高齢者を笑顔にできればとの思いから、昨年9月に「シニアメンタルビューティー協会」を設立。自身の経験などをもとに、福祉ネイリストの育成を始



め、先月、社団法人を立ち上げた。

知り合いのネイルサロンと連携し、大阪のほか、東京、兵庫、和歌山などに認定校を設けた。認定校で決められたカリキュラムを修了すると、福祉ネイリストとして認定される。薄くなったり荒れがちだったりする高齢者の爪の構造からマニキュアの塗り方などの基本知識はもちろん、高齢者の身体的特徴や心理、高齢者福祉の現状なども学び、施設での実地研修も行う。

認定校で勉強中の大阪府熊取町の女性(37)は「ネイルを通して高齢者のみなさんを元気にできたら」と話す。

### 気持ち明るく

若い女性の間では、爪に合成樹脂を塗って固め、凝ったデザインを施す「ジェルネイル」が長持ちする、と人気だ。しかし、高齢者の場合は急に体調を崩すこ

とがあるため、自分でも落としやすいマニキュアを使う。血流を良くする薬を服用している人は、些細な切り傷でも血が止まらなくなることがある。このため、爪を美しく見せるために甘皮をカットする際には金属製のニッパーを使わないといった配慮もしている。

料金は、ハンドマッサーが500円、甘皮処理は1000円、マニキュアも1000円からだ。

NPO法人「日本ネイルリスト協会」(東京都千代田区)によると、高齢者向けのネイルサービスは広がりつつあり、個人で活動するネイルリストのほか、専門学校の学生が施設を訪れるケースも増えているという。

荒木さんは「手を触りながら話を聞いていると、ヘルパーさんも知らないような話をしてくれることもある。ネイルの可能性を広げていきたい」と話している。



ネイルアートのデザインの見本。高齢者には定番の花だけでなくネコやパンダの人気も高い